教育広報
相双
SOU SOU
No.132

教育広報「相双」第 132 号
令和７年２月１２日
編集・発行
福島県教育庁相双教育事務所
福島県南相馬市原町区錦町 1-30
https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70610

夢中・熱中・集中

相双教育事務所次長(業務)兼学校教育課長　山本　秀和

夢中…物事に熱中して我を忘れるほど楽しむこと
熱中…真剣に冷静に取り組むこと
集中…一時的に注意や意識を集めること

最近は、サブスクでＴＶを見ることが多くなりました。オールドメディアと言われる地上波に魅力を感じていないのかも知れません。真剣に見ようとした訳ではなく、それほどアニメ好きと言う訳でもなかったのですが、目が離せなくなった作品がありました。

試合の描写の迫力が凄まじいの一言です。選手たちがコート内を駆けて、跳び、打って、それをレシーブし、今度は別の選手がトスを上げ、スパイクを打って…という一連の応酬が、生々しく臨場感ある効果音を伴って繰り広げられていきます。相手のスパイクをレシーブする際の、ボールが肉を打ったときの激しい音に、「夢中」になって取り組み、あと一本を打ち切れず悩んでいたあの頃の自分が重なりました。　※ハイキュー!!

「自己肯定感」が著しく低い中、「自己愛」は強い現代の子どもと言われますが、自分が強い興味・関心を抱くことに対しては、集中して取り組みます。しかし、興味・関心や集中の度合いや持続度は安定せず、チャンスや場面に対応した「やる気スイッチ」が、いつ ON になるか先読みできません。

夢中・熱中の状況は、授業での何気ない一コマや友達の考えが腑に落ちた時、身近な大人の豊かな人間性や美しい音楽・自然・スポーツのテクニックを感じた時など、様々な「対話」から生まれてきます。「対話」をきっかけに、子どもたちが一つでも夢中になることを見つけ、自己実現を図る一歩になることを望みます。

双葉郡の「ふるさと創造学」

広野町教育委員会教育長　根本　良政

東日本大震災から、この３月で14年を迎えます。双葉郡８町村の教育長会は、大震災の翌年平成24年12月に「福島県双葉郡教育復興に関する協議会設置要綱」を定め、この協議会により、児童生徒数の減少により集団活動が困難になるなど、一つの町、一つの村での取組では解決できない困難な課題の解決策として、各町村立幼小中学校間の連携を図り、ふるさとに生まれた誇りを持ち、文化や伝統を大切にする姿勢などの資質・能力を育むために、平成25年７月に「福島県双葉郡教育復興ビジョン」が取りまとめられました。

このビジョンに「ふるさと創造学」の推進があります。「ふるさと創造学」は、子どもたちが震災や原発事故を通じて得た経験、ふるさとの復興・再生に関わる中で得た経験を生きる力に変え、ふるさとの誇りと自ら未来を創造する思いを育めるように、平成26年度から郡内すべての小中学校で、また、平成27年度から福島県立ふたば未来学園高等学校、令和元年度から同中学校で、さらには、ふたば支援学校でも取り組まれ、「ふるさと創造学サミット」も開催されています。

子どもたちが、故郷を自分のバックボーンとして持ち、自立して将来を描き、自己実現を図り、地域を支える人材に成長できるように、広野町も「ふるさと創造学」に力を入れています。子どもたちが「自分は『こう在りたい、こう成りたい』」と強く願い、人生を切り拓いて行ってほしいことから、「念願は人格を決定す　継続は力なり」ということばを子どもたちに伝え続けています。

ふたば支援学校新校舎落成を迎えて

福島県立ふたば支援学校長　千葉　秀樹

本校は今年度「富岡支援学校」から「ふたば支援学校」と校名を変更し、令和７年１月に双葉郡楢葉町への新築・移転が完了しました。

１月２２日には、県知事はじめ、文部科学副大臣、復興副大臣、双葉郡内の首長など多くの来賓を迎え、新校舎落成式を挙行しました。児童生徒は、式典の中で新しい学校で取り組みたいことを発表し、新校舎での学習に大きな期待が感じられました。

新校舎は、地上３階建てで、県内初のオール電化です。給食は、新年度からにはなりますが、自校給食です。水治訓練室(屋内プール)、多目的室、自立活動室、地域支援センター室も設置されました。

双葉郡唯一の特別支援学校として、双葉郡教育復興ビジョンに基づいた、地域交流や農福連携などの教育活動を展開する予定です。また、センター的機能を充実させ、双葉地域における教育再生のシンボルとなるよう関係各機関との連携を深め、「地域で共に学び、共に生きる共生社会の形成」に向けた特別支援教育の充実に努めてまいります。

〔社会教育担当より〕

本を通して人を知る　人を通して本を知る

９月７日（土）に、ビブリオバトル相双地区予選会を開催しました。高校生２名、中学生４名の皆さんがそれぞれの推し本を持ち寄り、プレゼンテーションと質疑応答を行いました。相双地区ではまだなじみの薄いビブリオバトルですが、参加した６名のバトラーの皆さんの熱い思いが伝わる発表ばかりでした。初めて会う者同士が、一冊の本を通してつながりができる濃密な時間は、参加した者しか味わえないものです。大会での出会いは一期一会ですが、紹介された本を後日読んだ時に、発表者の姿を思い出すことも多々あります。

地域の皆さん、「本を通して人を知る、人を通して本を知る」ために、今日から本をたくさん読んで、推し本を見つけてください。

〔総務担当より〕

児童手当の制度改正について

令和６年 10 月に児童手当制度が改正されました。主な改正内容は①支給対象年齢の引上げ（15 歳→18 歳）、②所得制限の撤廃、③支給額の増額（第３子以降３万円）、④支給回数の増（年３回→年６回）です。

この改正により、高校生年代の子のみを養育している方が新たに支給対象となったほか、３人以上の子を養育している方や特例給付を受けていた方について支給額が増額となりました。対象者であるにもかかわらず、手当が支給されていない又は増額となっていない方は、手続きが漏れているおそれがありますので、速やかに事務の先生に御相談ください。

その他の手続きに関しても事実発生日の翌日から 15 日以内に行うよう、引き続き速やかな事務処理に御協力をお願いします。

各種表彰　おめでとうございます

◆文部科学大臣表彰
○社会教育功労者表彰
相馬市　遠藤　百合江
○「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰　優秀賞
楢葉町こども園・学校運営協議会
楢葉町地域学校協働センター

◆福島県教職員研究論文
［奨励賞］相馬市立向陽中学校　主幹教諭　佐藤　拓也

◆ふくしまっ子体力向上優秀校
［優秀校］南相馬市立高平小学校

◆ふくしまっ子元気大賞
・南相馬市立小高小学校
・富岡町立富岡中学校

◆福島県学校歯科保健優良校表彰
［優秀賞］南相馬市立小高小学校
［努力賞］相馬市立中村第一小学校
南相馬市立大甕小学校
［奨励賞］楢葉町立楢葉小学校
［活動奨励賞］南相馬市立上真野小学校

（敬称略）

学力向上支援アドバイザー事業

学力向上支援アドバイザーの佐藤博先生には、八幡小学校、飯豊小学校、日立木小学校、向陽中学校において、教員の授業力向上に向けた助言、ふくしま学力調査や全国学力・学習状況調査の分析支援、算数・数学の授業づくりに取り組む教員の支援、現職教育や教科部会等での助言等を行っていただきました。

授業構想については、児童生徒の課題意識を引き出す数学的な活動の工夫や、学習したことを生かすことができる適用問題の設定について指導していただきました。実践の振り返りにおいては、授業の具体的な場面を基にした指導・助言をいただき、児童・生徒の実態に応じた教師の働きかけについて改善を図ることができました。また、校長、教頭との情報共有を通して、一部の教員の授業改善にとどまらない組織的な授業改善の取組へとつなげることができました。

イノベーション人材育成推進教員活用事業（算数・数学）

本事業では、計４回の授業研究会を行いました。公開授業を基にした事後協議会では、小・中・義務教育学校の先生方が校種を越えて話し合い、子どもの姿に基づいた授業改善の視点や方策について協議を深めることができました。また、今年度は有識者による講演を２回実施しました。９月４日(水)の鹿島中学校における研究会では、国立教育政策研究所学力調査官島尾裕介様より、全国学力・学習状況調査結果から見える授業改善の視点についてご講演をいただきました。１月 24 日(金)の中村第一小学校における研究会では東北福祉大学教授菅原敏彦様より、算数・数学科の系統性を意識した授業改善の在り方についてご講演をいただきました。

各研究会の内容については、参加者自身の指導力向上のみならず、各校の授業改善にも役立てていただければ幸いです。

イノベーション人材育成推進教員活用事業（理科）

○　理科授業力アップ研修会

９月 30 日(月)に中村第一中学校、11 月 12 日(火)に新地小学校で STEAM 教育の視点を生かした授業や探究的な授業について公開授業、 研究協議を行いました。参加者の活発な研究協議を通して、小・中の学習内容のつながりを意識した授業構想について考えることができました。中村第一中学校では福島大学准教授平中宏典様より、中学校理科の授業づくりについて、新地小学校では福島大学准教授鳴川哲也様より小学校理科の授業づくりについて講演をいただき、単元構想の大切さや、これからの理科教育について理解を深めることができました。また、９月 11 日(水)に浪江町のふれあい交流センターで理科実験講座を行いました。観察・実験を通して教材研究の大切さを実感することができました。

ふくしま英語力向上事業

○　ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業

９月 17 日(火)に新地小学校､11 月６日(水)に中村第二小学校で授業研究会を開催しました。各市町の小・中学校の先生方が集い、推進リーダーの授業参観や協議を通してよりよい指導法や小中連携の進め方について理解を深めました。

○　小中高連携推進事業

９月から 11 月にかけて南相馬市でパフォーマンステストをテーマとし、原町第一小学校及び原町第一中学校、原町高等学校で授業研究会を開催しました。また、市内の外国語担当者によるワーキンググループも実施しました。大学教授の皆様方の助言をもとに、パフォーマンステストを見据えた単元計画の作成について協議が行われ、外国語指導について有意義な情報交換ができました。

不登校･いじめ等対策推進事業 スペシャルサポートルーム（SSR）

全国の不登校児童生徒数は 34 万人を超え、本県でも大きく増加しています。不登校・いじめ等対策では、普段から子どもたち一人一人が安心して楽しく学校に通い、充実した時間を過ごすことができる「魅力的な学校づくり」と全ての子どもに必要な資質・能力を育成する「授業改善」の視点が必要です。

尚英中学校、中村第一中学校、中村第二中学校、原町第一中学校、原町第二中学校には、SSR オンラインミーティングに参加していただき、効果的な運営方法や不登校防止対策、教育課程の編成などについて情報を共有しました。推進校の不登校児童生徒の居場所づくり、空き教室を活用した魅力的な環境づくり、新たな不登校を生まない安心できる空間づくり等の取組を参考に、各校の創意工夫によって自校化していただければと思います。

未来を拓く教育を 相双から

要請訪問を終えて

今年度の要請訪問Ｉでは、域内１５校と３園を訪問させていただきました。各学校の御理解と御協力に心より感謝申し上げます。多くの授業を参観させていただき、先生方が単元構成や指導過程において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて前向きに取り組まれている様子を見ることができました。

各訪問の事後研究会では、相双教育アピールの共通実践事項でもある「対話的な学び」について、先生方と忌憚のない話合いをさせていただきました。その話合いを通して、「対話」を子ども任せにするのではなく、教師がねらいをしっかりとおさえて子どもたちに関わっていくことや、表面的な「対話」ではなく、「深い学び」につながるような「対話」を実現させていくことが大切であることが見えてきました。そこで、次年度の要請訪問Ｉではこれらの課題を踏まえて、授業における「深い学び」を生み出すための「対話」はどうあればよいかを中心に先生方と一緒に考え、授業改善をさらに推進させていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

ふくしま幼児教育研修センター事業

１月 16 日(木)に、第３回幼小連携･接続研修会が推進モデル地区である南相馬市において開催されました。

５歳児から小学校１年生までの２年間（架け橋期）は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期と言われています。研修会では、幼稚園や保育園、認定こども園と小学校とが連携し、架け橋期のカリキュラム作成のために協議が行われました。目指す子ども像を共有するとともに、教師の関わりや環境構成の在り方等について、具体的な改善策が話し合われました。本事業を通して、幼児教育や小学校教育の関係者が連携してカリキュラムや指導方法の充実・改善に取り組むことができたことは、相双域内の幼保小の連携を推進していく上で大きな成果であるといえます。

ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業

本事業では、域内の特別支援学校の地域支援センターを中心に、視覚支援学校や聴覚支援学校と協力しながら、17 件の相談支援と８件の研修支援を実施しました。(R7.1 月現在)

「個別の教育支援計画」の作成と活用をテーマとして実施した研修では、研修の時間内に実際に計画を作成しました。普段関わっている子どもについて話題としたため、参加した先生方は必要感をもって研修に臨み、具体的な子どもの姿や手立てが多く協議されました。研修を通して、今後求められる支援の在り方や、自分たちが実施してきた支援内容の効果について改めて確認する機会となりました。

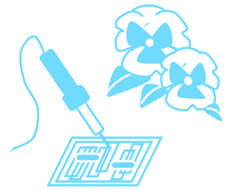
研修等の内容については、各校園の希望に応じて設定することができますので、ぜひご活用ください。

超スマート社会を担う産業人材育成事業

本事業の小事業である「専門教育魅力発信応援事業」において、域内の小中学生が専門高校で体験学習を行いました。

○ 相馬農業高等学校
11 月 19 日(火) 石神第二小学校
11 月 22 日(金) 石神中学校

○ 小高産業技術高等学校
10 月 31 日(木) 小高中学校
11 月 19 日(火) 高平小学校・大甕小学校・小高小学校



参加した小・中学生からは、「高校生が優しく教えてくれて、難しいと思っていた作業がうまくできて楽しかった。」「将来の職業について考える機会となった。」といった感想がありました。高校生からも、「人に何かを伝える難しさがわかった。」「小学校の頃の自分と重ねて、成長を実感できた。」といった感想があり、参加した児童・生徒にとって、有意義な機会となったようです。来年度からは、専門高校にふたば未来学園高等学校が加わり、体験学習を受け入れる予定です。